

公益社団法人 千葉県鍼灸マッサージ師会 会報

平成 25 年 11 月号



- 目次 -

- P1** 巻頭言
- P2** 公益社団法人取得記念式典のご案内
- P3** 活動報告① 千葉学会
- P5** 活動報告② 県民公開講座
- P7** 活動報告③ 関東甲越ブロック協議会 in 横浜
- P9** 支部活動 市川浦安支部 / 東葛支部
- P11** 『はり・きゅう・マッサージ学習一步』
- P13** 無資格者対策
- P14** 関東甲越ブロック組織強化部会報告

巻頭言

会長 齊藤 曠



2020年 東京オリンピック

業界にとっても最大のチャンス！

会員の皆様、毎日お元気でご活躍のこと推察いたします。
平素は、当会活動にご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。
この夏は、今までにない異常気象に見回れ、猛暑、台風、竜巻が多く発生し、被害に遭われた皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

さて、会員の念願でありました公益社団が10月1日付で認可され、当会にとって大きな目標ができました。

すでにご承知のとおり、公益目的には三つの項目を上げております。

- 1、 公衆衛生及び保健福祉の向上
- 2、 高齢者支援
- 3、 スポーツ等の支援

どれを取り上げても、我々鍼灸マッサージ師にとってやり甲斐のある奥深い治療です。特に、三項目は2020年の東京オリンピックに向けて、早々目標を立てて行動しなければ遅れてしまいます。

しかし、誰もが簡単にできる治療ではありません。皆で日々研修を積み重ね、実績を作っていかななくてはなりません。

会員の中には、いろいろな方面ですばらしい技術をもって活躍されている先生が多くおられます。ぜひ、その方々の協力を得て国民のため、スポーツ選手のために鍼灸マッサージ師が会を挙げて一丸となり、前進して行こうではありませんか。

ご協力、よろしくお願いいたします。

～ 公益社団法人取得記念式典のご案内 ～

晩秋の候、会員の皆様にはますますご清祥のこととお察し申し上げます。
当会の事業運営に対しましては、日頃より格段のご配慮をいただき、心より感謝申し上げます。

本年10月1日より公益社団法人千葉県鍼灸マッサージ師会に移行し、当会も県民市民の為に鍼灸マッサージを通じて健康の増進につながる事業を行っていく立場となりました。

公益社団法人への移行を祝う記念式典です。当会をこれまで支えていただいた先輩方を表彰する場もございますので会員の方々には万障お繰り合わせの上ご参加頂きたいようお願い申し上げます。

【日時】平成25年12月1日（日）10：30～15：00

【場所】ホテルポートプラザちば 2階「ロイヤル」 千葉みなと駅から徒歩1分
TEL：043-247-7211

第1部 記念講演会 10：30～11：30 （受付10：00～）

講師 杉田 久雄 公益社団法人 全日本鍼灸マッサージ師会会長
講演内容 国民の健康福祉向上の為に鍼灸マッサージ師ができること

第2部 祝賀会 12：00～13：00 （受付11：30～）

1. 開会挨拶
2. 表彰式
3. 祝辞
4. 来賓のご紹介
5. 祝電披露
6. 謝辞
7. 閉会挨拶

第3部 懇親会 13：00～15：00 （受付12：30～） 会員5,000円

1. 開会挨拶
2. 祝辞
3. 来賓のご紹介
4. 乾杯
5. イベントなど
6. 閉会挨拶

※総会資料に同封した「公益社団法人取得記念式典のお知らせ」に記載されている通りFAXでの申込にご協力をお願いいたします。

千葉学会

千葉支部 米井昭夫

8/9(金)旭市の趣のある料理屋「市造」にて千葉県鍼灸マッサージ協同組合主催で、千葉学会が開かれました。役員・関係者を含め20名以上の皆様にご参加いただきました。特に、地元の旭、銚子、匝瑳などの地域の皆様にご参加いただけたことは、大変意義のあることと思われました。

この千葉学会は、研修会のように一方的に聞くだけでなく、会員同士の学術面、技術面での交流を図るところに意義があり、先生方の持っている様々な治療法などを表に公開していただけたらと考えています。また、普段県師会の活動に参加されていない先生方にも参加していただけるようなものにしたいと考えております。

残念ながら、本来の学会の姿とは少し違うかもしれませんが、会を重ねる中で、本来の学会の姿になればとも思っています。

当日は、午前中が千葉学会、午後が昼食を兼ねた親睦会という形で、有意義な時間を過ごすことができました。

以下に、学会における3名の先生の発表の要旨を簡単に記します。

1. 越川和夫先生「認知症へのはり、マッサージのすすめ」

まず姿勢の改善によって頸動脈への圧迫を無くす。これにより、脳への血流の改善され、前頭葉の萎縮を抑制することができ、認知症の進行の抑制に寄与する。また、胆経の施術と運動療法を組み合わせ、股関節の屈曲・外転・外旋が改善することにより、介護する者への負担軽減が図れる。さらに鍼やマッサージ施術を行うことにより、精神的ストレスが緩和され、認知症の進行を遅らせる可能性も充分あると発表されました。

2. 石川英樹先生「慢性閉塞性肺疾患(COPD)」に対する鍼治療の有効性

京都大学発表の論文を見つけた患者様の要望により、鍼治療を継続的に行った結果、データ上ではわずかな改善でしたが、労作時の息切れが軽減し、QOLが目に見えて改善されたとの発表でした。この治療は継続されており、いずれこの紙面にて紹介したいと思います。

3. 元吉正幸先生「関節リウマチ、腰痛、しびれの最近の常識について発表」

関節リウマチについては、以前に会報にて紹介されておりますので、今回は「腰痛」についての発表のレジメを紹介します。



【腰痛をめぐる常識のウソから本当を導き出す】

1994年に福島県立医科大学教授が『腰痛をめぐる常識の嘘』を出版し大きな反響があった。98年には『続・腰痛をめぐる常識のウソ』を出版し、腰痛のさらなる常識をひるがえした。この2冊を元に自信の臨床経験を振り返り、本当とは何かを考えてみた。

1. 急性腰痛時には傍脊柱筋のスパズムにより可動域は著明に減少し フラット・バックになっている

急性腰痛の場合には脊柱の可動域が著明に制限され、腰椎の前弯が減少することは多い。

傍脊柱筋は解剖学的に腰椎前弯を保持する機能があるため、この筋肉がスパズムを起こすと腰椎は前弯増強となるはずである。ではその原因は何なのかというと脊柱筋の内圧が上がると、風船を膨らませたように縦に一直線になることが腰椎のフラット・バックを引き起こしているのではないか。しかしこれだけですべてを説明できるわけではなく、マニピレーションで劇的に症状が消失することもある。

筋肉の内圧が上がれば筋膜を破らない限り瞬時に内圧は下がらない。いずれにしても急性腰痛時の腰椎前弯減少は傍脊柱筋のスパズムだけでは説明がつかない。

2. 腰痛・坐骨神経痛は手術が必要である

腰椎椎間板ヘルニアの5年間追跡調査によると、50%が症状がなくなり、42%の人が症状はあるが日常生活には支障がなくなり、日常生活に困る患者さんは2%であったという。

間欠破行のうち坐骨神経痛のあるものはほとんどの症例でよくなるが、馬尾障害のあるものは放置しておくとも症状が悪化の傾向にある。腰痛坐骨神経痛の90%は3ヵ月以内に軽快。本当に問題となるのは腰痛・坐骨神経痛のうち1割と考えてよい。

3. 下肢痛のない椎間板ヘルニアはない

脊柱管の面積が広く腫瘤が小さいものは下肢痛なく腰痛のみのものもある。

4. 椎間板の内部には神経は存在しない
5. 運動療法は慢性腰痛に対して有効な治療手段である
6. 運動療法は急性腰痛に対して有効な治療手段である
7. 骨盤けん引は腰痛に対する有効な治療法である
8. 硬膜外ステロイド注射は有効な治療法である
9. 運動が骨粗鬆症の予防に大切である
10. 変性すべり症を有する患者さんは一生症状で悩まされる

以上簡単な報告であります。会員の中より発表していただけた方がなかったのは大変残念でした。来年以降に期待いたします。

今学会の内容は、県師会HPにて公開しようと計画しております。

最後になりましたが、今回の学会を成功させるためにご尽力いただきました、旭・銚子・匝瑳の各地域代表の皆様にご心よりお礼申し上げます。



県民公開講座・鍼灸マッサージボランティア

船橋支部 椎名喜代美

皆さん、こんにちは。船橋支部の椎名です。さる、9/8(日)に開かれた県民公開講座についての報告です。

はっきり言って、「この講座を聞きそこなった先生は、損をした」と、思います。これからの時代、年配者が増えて、認知症を患う人も増えるのです。そのような人に対する対応の仕方を学べる、第一歩だと思いました。

「私は、そんな人は相手にしたくない」と、思っている先生、でも、年をとると誰でも認知症になるのです。60歳より前が出るのは“病気”、80~90歳で出るのは“老化”。同じ症状でも、病気になったり、老化になったり。

私たちの仕事は、高齢者と接することの多い仕事です。今まで来院されていた方が、急に認知症にかかることも多いと思います。そうした時に1日でも早く気づいて、病院を勧め、症状の悪化を遅らせる。これも私たちの仕事に含まれる一つだと思います。

時間は遡りますが、午前中の無料マッサージ、鍼体験ブース、成功でした。朝の10時30分から来客者があとをたたず、ベッド6台とマッサージ椅子3台で行ったのですが、ベッドが空く暇もないほどでした。

それにともない、午後の講演会もかなりの来客数があり(127人)とても盛況でありました。ボランティアの先生方も多数集まっていたいただき、それぞれが交流をもち、いつもとは違った話ができて、お互いが得る物もあったのではないのでしょうか。

理事の先生方は適切な誘導を行い、人が多いなかで、順番等の間違えがないか、スムーズに施術がすすんでいるか等、気をつけておりました。

皆さんの力が結集したいい講演会であったと思います。

来年度は、今年参加されなかった先生方もぜひ、参加してみてください。きっと、得る物も多いと思います。皆さん、お疲れ様でした。

.....

千葉支部 小林章一

県民公開講座の前に一般の方を対象にボランティアマッサージをさせていただきました。

初めてマッサージを受けるとい方が多く、主訴は「肩こり」「背中の張り」「膝の痛み」が多かったです。事務仕事で1日8時間座りっぱなしでパソコン作業をされている方や、自宅の庭のお手入れをしていたら肩から腕にかけて痛みが出た方、階段を降りる時に膝が前にずれるような感じがして不安な方などいろいろお話を伺いながらマッサージをさせていただきました。

「肩こり」や「背中の張り」の方には患部のマッサージはもちろん、普段出来る簡単なワンポイント肩こり予防体操や工作中的の姿勢についてアドバイスさせていただいたり、「膝の痛み」の方には膝周囲の筋肉群の正しい使い方や歩き方をお話して普段から

気をつけていただくように歩き方ポイントをお伝えしました。

マッサージや指圧、鍼灸を受けていただいてお身体を楽にさせていただくことは大変重要ですが、なぜその痛みや症状が起きたのかを探り、再発防止のお手伝いが出来ることが私達治療家の仕事であり醍醐味だと思います。

今回のボランティアマッサージを通じて、鍼灸マッサージの普及に貢献できるとともに、千葉県民の皆様のお役に立てたら幸いです。

最後まで読んでいただきありがとうございます。

.....

成田支部 宮永一郎

9/8(日)千葉市民会館にて千葉県鍼灸マッサージ師会県民公開講座が開催されました。今年のテーマは認知症ケアを学ぶ講演会、認知症とはり、灸マッサージで第一部が窪田妙子先生による看護師から認知症患者への手の差し伸べ方。第二部は山口晴保による認知症の正しい理解と予防、ケアのコツ。でした。

窪田先生は聖隷佐倉市民病院で勤務されている現役の看護師であるので現場での体験をもとに認知症の方々への対応、ケア正に手を差し伸べるといふことの意味を学ばせて頂きました。

山口先生は著書も多数出版されている第一人者で今まで自身の認知症の方々との接し方が実は間違いであることを気づかされました。認知症は病気ではなく個性楽しんでケアすべきということが大事なんだと学ばせて頂きました。

今年は午前中に県民に無料マッサージを提供すべく朝早くから理事、会員、事務局の皆さんと会場の設営から始まり無料マッサージ、鍼灸、テーピングコーナーでは多数の会員の方々のおかげで県民の方々の喜びの声をたくさん頂きました。

毎年講師の先生を手配するのに尽力して下さる学術部及び理事の方々はもとより、会員、事務局の方々の献身的な協力があつてこそ県民公開講座が成り立つのであるのだなと感じております。皆様本当にありがとうございました。私自身も県民の皆様に喜んでいただける様努力していく所存であります。



関東甲越ブロック協議会 in 横浜

会長 齊藤 曠

9月15日(日)~16日(月)横浜市において、第66回関ブロ神奈川大会が開催された。

あいにく台風18号の影響で両日とも最悪、帰りの16日は交通機関がマヒ状態で大変でした。

しかし、雨にも拘わらず第一日目の公開講座(帯津三敬病院名誉院長 帯津良一先生)『命のエネルギーを高める癒しの力・生命力』には大勢の皆様がユーモアを交えた先生のお話に魅了されたのではないかと思います。

治療法として

1. 自然治癒力の効果を引き出すもの(鍼灸)
2. 物理化学的治療(西洋医学)
3. 治療者と患者の関係性の効果を高めるもの(本来の温もりのある医療)があり、これらを統合して初めて最大の治療効果を得るものである。

続いてシンポジウムが行われた。

テーマ『業界の将来ビジョンと経営について』

1. 業界の将来ビジョンを示す credo (Credo 理念)
2. かかりつけ鍼灸マッサージ師役割について
3. 地域医療における鍼灸マッサージ師の役割
4. これからの経営のあり方

鍼灸マッサージ師の社会貢献・ボランティアなどについて発表された。

16日(月)は、ワークショップが開かれた。

各県ごとに将来ビジョンについて検討された。

当千葉県では

1. 皆で理念ビジョンの共有
2. 多様なニーズに対応できる研修会
3. 魅力的な組織作り
4. 多方面からの情報収集・共有
5. 参加したいと思う研修会の持ち方
6. 視覚障害者への配慮
7. 開業支援へのサポート

他県を見て共通して言えることは、組織作り、会員を増やすには、若い人の参加、保険問題、ホームページ・ブログ等の作成発信など。

今回の大会は、今までにない形式で開かれ、ただ聞いているのではなく一人一人参加

型の大会であった。学校教育も先生の講義を聴いているだけではなく、一つのテーマに対し、自分たちがどう拘わっていき解決するかという方向に進んでいくものと思われます。

.....

安房支部 光田幸子

今までホリスティック医学には漠然とした印象がありましたが今回、帯津良一先生の『命のエネルギーを高める癒しの力・生命力』のお話を伺って自然治癒力を別の角度から見た思いがしました。また会場が温かく癒されていくのは帯津先生のお人柄なのでしょう。時間もあっという間に過ぎてしまいました。

話の中で意外に感じたのは(エネルギー、生命の場)その最も素晴らしい場は浄土との事、しかし浄土は他力。それに対する自力は人間の本性である悲しみであるとの事、ホリスティック医学の人間味のような所を感じました。

しかし先生の悲しみの哲学には情熱があり日々の臨床では「患者さんと戦友のようになる。二人で相談して探っていく感じ」
「相手を思ってそばに立ち思いやれば良い」そんな先生が居てくれるだけできっと患者さんは信頼し何倍も元気になれるだろう、そしてまさに自然治癒力が湧いてくるのだろうと。改めて大切な事学びました。

そして、もうひとつ学びました？ それは最高の養生方はトキメキと言う事だそうです。帯津先生のように日々トキメキながら熱く温かい治療家になりたいですね。



はり・きゅう・マッサージ無料奉仕会〈市川浦安支部〉

市川浦安支部 梶貴雄

敬老の日の前、9/13(金)に市川市主催の「はり・きゅう・マッサージ無料奉仕会」が、市川市中央公民館で行われました。施術者として、市川浦安鍼灸マッサージ師会会員 11 名が参加。

市川市内在住の 65 歳以上の方々に、鍼灸マッサージを通じて健康維持につとめていただこうと、市川市からの依頼で当支部が施術を協力させていただいている事業です。施術を受けていただいたのは、定員いっぱいの 40 名。気持ちよさそうな表情や笑顔にあふれるイベントで、大変盛り上がりました。



昭和 59 年から続く事業で、今回が 30 回目。事業を継続させるには、先輩先生方や各方面の関係者の方々のご尽力やご苦労があるのだろうと推察いたします。私は今回で 3 回目の参加ですが、来年以降も事業が継続するよう、市川市と当支部の関係が良好に維持されるよう、微力ではありますが支部活動に携わっていきたいと思います。

私個人としては、市川市や千葉県的发展や繁栄を支えてこられた 65 歳以上の方に、市民を代表するつもりで感謝の想いを込めて施術させていただきました。また、先輩先生方の治療の様子も拝見することが出来、問診から検査、施術だけでなく、施術中の会話など、こういった機会

を通しとても勉強になりました。来年以降も是非、参加させていただきたいと思います。

また、当日は東京新聞や市川よみうり、市川ケーブルテレビなどの取材が入り、市川市のイベントとして配信されております。



運動教室〈東葛支部〉

平成25年も昨年に引き続き流山市南部包括支援センターより、高齢者の転等予防を目的に運動教室を行ってほしいとご依頼をいただきました。昨年の参加者も20名程度今年も行いたい希望をいただき今年度は50名の大所帯で行うことになりました。人数が多いことで一人ひとりに指導が伝わるかは不安ではありますが、昨年行った方々と一緒に隣の方に声を掛け合いながら鍼灸マッサージ師(当会員)3名で運動指導を行っております。

半年が経過して皆さん慣れてきている感覚もありますので、運動の内容も少し増やしながら体力状態を考え、日常自宅でもできるようにお願いをしています。運動前には経絡ストレッチを行っておりますので4月の最初の時は肩や腰、膝(ひざ)などにロコモ症状があった方も、最近では動かしても痛みをあまり感じなく可動域が増えてきております。参加者からはメタボも少しはよくなったかもと言う話も聞かれます。

運動をしながら苦痛にならないように東洋医学(つぼや経絡)の話、夏の水分や食事などの話も加えて負担にならない内容にしています。

参加者の方々からは、体についての質問や自分の状態でどこまで行ったらよいのかと言う細かい質問にも会員一人一人が声をかけられ丁寧に対応しております。

今年もこれから健康寿命が伸びるように参加者の皆様の健康づくりに協力できるよう行っていきたいと思っております。地域の健康づくりにご参考にしていただければ幸いです。

お読みいただきありがとうございます。

**会報の 拡大版・書体変更 対応いたします*****

いつも会報をご覧頂きありがとうございます。会員様よりもっと読みやすい文字(太字、ゴシック体等)を、とのご意見が寄せられております。文字の見やすさについては個人差もありますので、通常の会報につきましては従来通り、本文は明朝体とし、ご希望の方には個々に対応したいと考えております。

書体の変更、拡大版(A3版)でのお届けをご希望は、下記までご連絡下さい。

千葉県鍼灸マッサージ師会(電話 043-290-7538)

はい・きゅう・マッサージ学習一步

学術部長 元吉正幸

鍼灸マッサージ師が未来に向かい発展していく「学習一步」どのような道を進めばよいのでしょうか？

まず、今この現代医学を常に学徒として学ぶことだと思います。

さかのぼること30年前は確かに昔でした。鍼灸マッサージ師は医療類似行為者で、治療者ではなく施術と呼ぶように、診断は医療行為だから判断と呼ぶようになどということが実際にあり、医師の学ぶ診断技術などを学ぶ機会はほとんどなく、その頃高い臨床医学書を買って勉強しても、難しい病態や臨床経験の少ない「臨床一步」を踏み出した者にとっては、「臨床一步」のための「学習一步」に大変な時間と労力を使いました。

しかし現在は、インターネットなどにより無料で解決することができ、昔、高い本を買って学んだことや、遠くの勉強会に行行って学んだことが、瞬時に手に入るようになりました。

制度としては医療類似行為者として変わりはないのですが、今では看護師なども看護に必要な「看護診断」の教育がなされています。医師のような診断行為はできないにしても、鍼灸師の必要な鍼灸マッサージ師の必要な診断はなくならず、「鍼灸臨床診断」「マッサージ臨床診断」を堂々と主張していくことが、未来に向かう者の使命であると思います。

それでもまだ診断や医療は医師だけが行える行為だという医学者がいるのであれば、そのほうが変だとなるように鍼灸マッサージ師は、基礎医学を学び病態を知り、病歴を的確に推論し、その推論と診断に基づき、診断・鑑別を行い、医療連携するものは的確に行い、予後を推定し、患者に伝えてそのように経過していく、そのような鍼灸マッサージ師になることが未来人としての鍼灸マッサージ師なのです。

私たちはこの業で生きていく限り、現代人であって未来人なのです。

それではどのような学習の一步を踏み出せばいいのでしょうか。

私の今までの話で誤解していただきたくないのは医師と同等の知識を身につけるといことではありません。それだったら医学部の大学に行かなくてはなりません。若い鍼灸師マッサージ師は臨床に生かす未来に向かう学習をし、経験豊かな鍼灸マッサージ師は、優れた臨床能力を「なぜ効くのか」を説明し多くの仲間伝えていくことが必要です。そのための学習の一步なのです。

未来の鍼灸マッサージ師は「科学コミュニケーション」ができる能力が必要です。

その第一は鍼灸マッサージがなぜ効くか、最新の研究成果を仕入れ、臨床に役立てて手ごたえを得ていくことだと思います。最高の料理人は最高の市場に行き最高の目利きで最高の食材を手に入れ最高の料理を作り、食べる人に最高の喜びを与えるすばらしい努力をしています。

鍼灸マッサージ師も臨床家は料理人と同じなのです。最高の鍼灸マッサージ師は最高の治る理由も考えていく臨床家でなければなりません。

鍼灸の治効理論としては鍼については、筋肉の線維に斜めに鍼を打つと軸索反射により筋肉内の血管を広げるペプチドが筋肉内の神経末端から遊離されることにより、筋肉の強縮をとることが知られており、これにより、筋肉の強縮により引き起こされる胸郭出口症候群や筋・筋膜性の腰痛や梨状筋症候群がなぜ鍼がよく効くのか説明できます。

このような知識を持ち、医療にかかわる人たちに説明し、なるほどと思っただけることが必要で、また患者さんの「なぜ鍼は聞くのでしょうか」という答えに、「中国3000年の歴史があるから」だけの説明ではおさまりのつかない時代であるのです。

最後に誤解のないように、私は西洋かぶれしているわけではありません。鍼灸マッサージ師は西洋医学を学ぶ以上に東洋医学を正しく学んでいくことが必要です。本当はそれが専門だからです。

古典に書いてあるからという理論に当てはめる治療ではなく、本当に人を「望・聞・問・切」し「陰陽虚实表裏寒熱」を診立て、素脈を診立て、「証」を診立て鍼灸マッサージで治療することが大事なのです。

本当は世の中が求めている事は現代医療が求めているものは伝統医学を正しく学び誠実に行える治療者なのです。だからこちらの方も学習の一步にしていかななくてはならないと思います。

「二兎を得るもの一菟を得ず」ということわざがありますが。西洋医学と東洋医学は2つであって1つ、1つであって2つという使い手である鍼灸マッサージ師の未来への第一歩が「学習一步」であり統合医療の事始めなのです。

杉田玄白らが解体新書をオランダ語から学び苦勞して成したこと、それが蘭学事始めであったように、私たちも「現代統合医療事始め」から未来人として進んでいきたいと思えます。



無資格対策

無資格問題対策委員 富森猛

== 公共施設内でカイロ講習会 ==

7月から8月にかけて県内の複数の市町村の公共施設内でいわゆる無免許業者主催の「カイロプラクティック講習会」「就職セミナー」などが開催されるとの情報が入り、当該施設に対し公共施設内で無免許業者による講習会や就職セミナーへの場所の提供を行うことに対する社会的問題性をご説明し、今後公共施設内における手技療法の講習会等については慎重に対応していただき、このような手技療法に関する会の主催者は国家資格取得者に限って認めていただきたい旨を要望させていただきました。

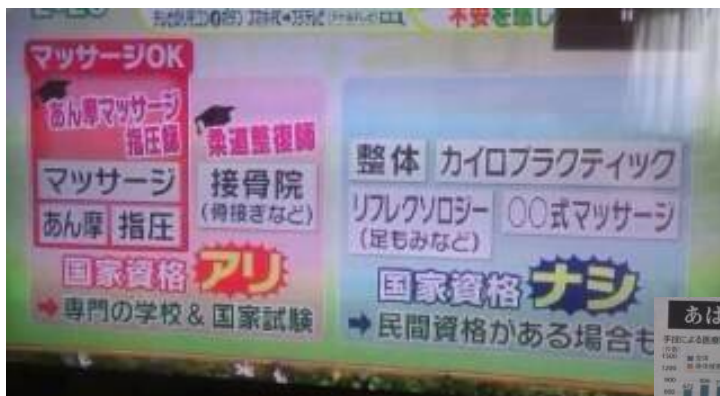
会員の皆様の地域でこのような公共施設内での無免許業者の活動を耳にされましたら事務局までご一報いただければと思います。

== 無免許マッサージ問題、各メディアで取り上げられる ==

8月5日の産経新聞朝刊社会面で「マッサージ店ケガ人続々・・・背景に無資格施術」のタイトルで無免許マッサージ問題が大きく取り上げられました。

更に8月7日に放送されたフジテレビ『アゲるテレビ』でも同様の話題の特集コーナーが組まれました。いずれも医療類似行為による被害が昨今激増している事実と、その背景には無免許業者が野放しになっていることに対しての問題提起的な構成になっていました。世論の反響も非常に大きかったようでメディアの影響力を改めて感じさせられました。

無資格問題対策委員としましても今後メディア等に対し報道していただけるよう情報提供を強化していきたいと考えております。



関東甲越ブロック・組織強化部会報告

組織部長 川端隆治

10/21（土）都内にて関東甲信越ブロック・組織強化部会が本年も開催されました。私は、今回で二回目の参加となりました。茨城・栃木・神奈川・埼玉・千葉・群馬と各県の代表者が一堂に集まる、またとない機会です。

会議の内容は、やはり組織強化の名を打っておりますので、会員数の増加についてどのようにしたら良いか？の討論でした。

特に目立ったのは、『かかりつけ鍼灸マッサージ師』についてでした。現在検討中（新潟大会で発表済み）とのことでしたが、なかなか良いアイデアだなと思いました。かかりつけ医が定着してきている昨今、かかりつけ鍼灸マッサージ師も！！との考えでした。

もう一点は、各地域での貴重な研修などを電子化して、共通のサーバーを設け、会員は閲覧できるようなライブラリー的なものを作成し、会員へのメリットをうたってみたらどうか？との案も出ていました。

無免許問題にも触れており、何をおいてもとりあえず我々の業界が患者様に選ばれる様になるために資質の向上が必要だと痛感致しました。

今回は、議事進行も任せられ、貴重な経験をさせていただきました。私も、なるべく会員さんと一対一でお話しできるように、お時間を作らせていただきご理解を頂けるように努力をしたいと思います。

今後の予定

日程	内容	場所
11/22(金)	地域代表者会議・臨時総会	千葉市民会館
12/1(日)	公益社団法人取得記念式典	ホテルポートプラザちば
2/1(日)	柏駅伝 [東葛支部]	柏の葉運動競技場
2/23(日)	第2回研修会	千葉市民会館 4F
3/23(日)	千葉県介護予防指導者研修会	千葉市民会館 4F

※以上の予定につきましては、それぞれ書面をもって通知いたします。

ご不明な点は事務局(tel043-290-7538)までお問合せ下さい

“ちょっといい話”募集します

千葉県鍼灸マッサージ師会 公益法人取得記念式典に向け、“ちょっといい話”を募集しています。先生方が鍼灸師、マッサージ師として心を動かされた体験を教えてください。

【応募】千葉県鍼灸師マッサージ師会 事務局
〒263-0021 千葉県千葉市稲毛区轟町 4-6-23
グランドメゾンとどろき 202
FAX. 043-290-7539



発行 公益社団法人 千葉県鍼灸マッサージ師会
〒263-0021 千葉県千葉市稲毛区轟町 4-6-23
グランドメゾンとどろき 202
Tel.043-290-7538 Fax.043-290-7539
<http://www.harikyumassage.jp>

発行責任者 齊藤 曠
編集責任者 小室聡子